

技術士受験体験記

1. はじめに

これまで6年間に渡り技術士試験を毎年受験してきた。昨今の厳しい業界情勢の中では、資格取得による金銭的なインセンティブが少なくなり、地方の受験者には受験費用の捻出や受験地までの交通費、宿泊費にも困る人も多いと思う。また仕事が多忙で勉強時間が確保できない情勢も続くと推測できる。このような環境の中、独学で受験を目指す人も多いと思う。

ここで、あくまでも個人的な経験談に過ぎず、また、現行試験制度も今年1年で終わり、今後の参考にはあまりならないかもしれないが、独学での受験を目指す人の一助になればと思い受験体験をまとめた。

2. 技術士試験に気がつく

平成6年度に技術士という資格を知った。社内に当該部門技術士がいないと技術士補になれないという誤解を聞いて信じたため建設部門で受験した。不合格。この後、社内の技術士でなくても技術士補となることができるという情報を聞き、平成7年度に水道部門を受験し合格。結果的に、この年に上司が技術士第二次試験に合格し、社外の技術士にお願いしなくても登録ができるようになった。

3. 技術士第二次試験（水道部門）への挑戦

4年後、平成12年度に初受験。分量の多さ等で非常に厳しい旧制度での試験であった。その前日、試験地、大阪へ向かう朝、腰を痛め、なんとか受験には行ったものの内容は悲惨であった。脂汗をかきながらなんとか字をうめた状態であった。当然に不合格。

翌年、平成13年度、現行制度での受験であった。この年は専門、一般ともにそこそこ書け、なんとかなるのではと思ったが不合格であった。不思議に思い、原因分析すると、次第に「もしかして経験論文が合格点に達していないのではないか」という点に気がついた。そこで人に論文を見てもらうことにした。最終的に10人程度の人に見てもらったが、最初に「これは経験論文ではない」と評された。

実は、私自身、それまで専門雑誌に投稿するなど文章を書く訓練をしており、得意という感覚があった。この点で、専門、一般論文はさしたる準備をしなくても書けた。念のため人に見てもらった時も「これは合格点と思う」と言われた。ところが経験論文では、この点が逆に自分なりのスタイル、クセとなり、「アピールしたい気持ちはわかるが、標準的な経験論文の姿、形式をふんでおらず、これでは点数がつかないかもしれない」と評価を受けた。そして「経験論文には”型”があるので、それを学ぶつもりで全面的に書き換えたほうがよい」とアドバイスを受けた。

この修正を受け平成14年度の試験を受験した。この年から地元、石川に受験会場ができた。ところが問題を読み間違え、一般問題で2問解答すべきところを1問しか対応しておらず、結果は不合格であった。失格となった可能性も高い。

そして平成15年度に受験し筆記試験に合格した。口頭試験は、経験論文の件でお世話

になった方から資料をいただくなどし、ホームページ情報など基本論点を押さえて受験し合格した。平成16年度から水道部門は上下水道部門となった。

4. 技術士第二次試験（総合技術監理部門）への挑戦

引き続き平成16年度に受験したが準備もそこそこしかできず、通称、青本（技術士試験における総合技術監理部門の技術体系）の内容をざっと見ての受験であった。当然に不合格。

平成17年度に再び受験し合格した。この年、論文問題の傾向が変わったことが、私にとっては大きく幸いした。問題が論文構成上、専門部門の経験論文の構造にそっくりになり、水道部門受験で身につけた論文の“型”に、管理観点3つについて記述を埋め込む方法をとった。筆記、口頭ともに合格であった。

5. 学習方法について

1) 基本姿勢

平成12年度からここに至るまで業界の情勢が悪化し、資格手当、合格一時金の停止が発生した。最終的に私の場合、合格時のみ受験費用実費の支給となり、金銭投資の早期回収が非常に難しい情勢が強まった。よって独学での受験を続けた。

一方、子供が小さく、子育て参加の観点から、家では一切、勉強しないと決めた。よって勉強時間はOJT、そして自己啓発としての通勤時間と昼休み時間が主となると考えた。また、打合せに向かう移動時間や業務上での隙間時間の有効活用を図ることとした。

これだけでは時間が不足すると考え、暗記力を脆弱化させないため、タバコ、お酒ともにやめた。20代の時は1回で覚えられたことが2回でないと覚えられなくなっていた。今では3回しないと覚えられないこともある。しかし、いかなる試験にも暗記の要素があり避けられない。よって記憶力の減退防止対策を行い、より少ない手間で効率的に覚えられるようにすることで時間を節約した。

2) 技術士第二次試験（水道部門）の勉強方法

専門や一般論分問題の基礎力は、どれだけ深く広域的確に「下水道施設計画・設計指針と解説」等指針類を「理解と暗記」しているかにかかっていると思う。技術資格の場合には一字一句までの丸暗記は必要ないが、専門用語とその定義は明確におぼえておくことが合格答案につながると思う。また時事話題は、毎月着実に下水道協会誌、月刊下水道、そして月刊推進技術を読んでいるかによると思う。そして、ネット情報のチェックが必要であると思う。例えば国交省下水道部のページはチェックすることが必要である。これらの内容は実務のための基礎力を形成することにも役立ち、普段のOJT+αで習得可能であると思う。

テキストとしては以上の内容で、これに加えて必ず過去問のチェックが必要となる。これはOJTでは習得できず、昼休みを使って押さえていくことになると思う。本が滅失し題名を忘れてしまったが、水道部門に特化した過去問本を一冊使い、指訓練のため写経方式で勉強した。択一对策は的が絞れないため結果として何もしていない。論文を書くため

には展開応用力が必要になり、業務の報告書作成や、ウェブ掲示板での俊敏な発言等により、論点発見と対策提案スピード力をつけるなどした。

当初の計画では、残業も忙しく、これ以上の勉強をしない予定であったが、経験論文の書き直しには、どうしてもまとまった時間が必要になり、家ではできないので会社に土曜日に出て修正した。自分固有の癖を洗い流すために大変にこの点では苦労した。その当時、上述の3つの専門雑誌に文章を書いて投稿していたが、この文章の書き方が経験論文を書くのに害になると考え中断した。少なくとも受験にあたって、経験論文をできる限り多くの人に読んでもらいコメントをもらうことは有効と思う。

3) 技術士第二次試験（総合技術監理部門）の勉強方法

この部門は通称、青本（技術士試験における総合技術監理部門の技術体系）を読んで、科学技術振興機構のWebラーニングプラザを学ぶことで対応可能と思う。昼に弁当を食べながらどんどん見ていくことで学習が可能であると思う。これが択一对策になり、論文基礎力になると思う。論文は事前対策することが難しいので雰囲気だけ押さえ、現場で論文対応するものと考えた。

6. 私が思う合格の秘訣

1) 毎年試験を受ける

結構な人数が敵前逃亡、戦場途中逃亡していると思う。当たり前であるが受験しなければ合格できない。仮に合格できなくても来年のための模擬試験と行って行くべきだと思う。本番には本番にしかない雰囲気があり、時間が拘束され、電話もかかってくず、ただひたすらそれに集中できるというメリットがある。その中で、今まで気がつかなかった点に気がつくこともあると思う。また、たまたま自分のための問題が出る可能性もある。それができれば合格できる可能性は高い。まず受け続けることが重要と思う。

2) 「受験」のプロにならない

受験は所詮、受験と割り切ることも必要だと思う。受験の目的は合格答案を書いて通過することであり、例えば「それに伴って実務力がつかなければいけない」といった意見も一理はあるが、それをすると遠回りになるリスクもあると思う。私個人としては、実務力は実務でつけ、受験でつけるものは知識の体系であると思う。

大学受験とは異なり、社会人としての仕事との両立とのかねあいで、試験日前に勉強できないという状況になる可能性も大きい。よって、そのリスクを前提として、できる準備は早めにして、受験日に事前準備の不足にならないようにしたほうがよいと思う。

3) 捨てるものは捨て、資源を集中する

例えば、賭け事や投資をする場合には、賭ける物が必要になると思う。お金はもちろんのこと、時間、運、知力など資源である。そこにおいて、捨てるものはしっかり捨て、実現すべきものはしっかり実現すべきと思う。私の場合、例えば、酒、タバコは捨てた。これにより得た記憶力の風化防止効果により効率的効果的な成果を実現することができたと思う。また、社会人が時間を確保するには、通勤時間と昼休みの活用が不可欠である。妻

の協力を得て昼は弁当にした。技術士のような高度試験を受けるには、よほどの人でないと、何の犠牲（捨てるもの）もなく合格するようなケースは少ないと思う。

7. おわりに

私の場合、いつ勉強して合格したのですか？と聞かれることがある。仕事もやっているように見えるし、いつしているのですかと。私が思うにそれらの人が考える「勉強」といったものはさしてしていないと思う。仮に「一回見聞きしたらすぐに記憶でき、なかなか忘れない」という人がいたら、ほとんど勉強する必要はないと思う。この内容の理想的実現は非常に難しいと思うが訓練次第で向上する能力であるとも思う。

私は、コンサルタントは人より先に学ぶことが本道であると思う。そして、それを常に続け、活用している中で、理解と記憶の定着が図られるものだと思う。その上で受験対策として必要なものを準備する範囲では、さほどの手間はかからないと思う。ただし私の場合のように、経験論文に対する勘違いをしていると合格が遅れるので、この点には注意が必要だと思う。

さて、業界の激変が厳しい中、従来であれば、自分もいいところまで精進したといい気になっていた頃かもしれないが、現在の情勢はそれを許す段階にはないと感じている。今年七回目になる技術士受験の準備を行っている。また、規制緩和リスク、業界動向リスクの分散のため、今年4月になりダブルライセンスの必要性に気がついた。

これまで中学校時代に地元河川の水質調査を行い環境問題に目覚め、大学では地学を学び、社会人となってからは、公共下水道事業や合併処理浄化槽整備を通じて環境への貢献を行ってきた。今後の新たな分野として、土壌汚染のエキスパートとなるべく、環境計量の資格を取得する一方、法律的な面から土地を見る観点を強化するため、現在、不動産鑑定士資格を目指している。

おそらく、技術士（総合技術監理部門）＋不動産鑑定士＋環境計量士（濃度関係）といった資格の組み合わせでみた場合、日本国内でもそう数はいないと思う。今までのところ具体例が見つからない。この観点では、ここまでを達成できれば、日本有数のエキスパートと自認する根拠説明がつけられるとも思う。

ただし、その実現のために捨てるものの大きさを思えば、まさに「バカ」のすることであり、私が目指しているのは、実は、日本一の「まじめ馬鹿」ではないかと思う。しかし一方、例えば「メジャー」といった野球漫画がヒットしているのを見ると、そこに描かれているのは、要領のよいお利巧さんではなく、素朴な野球バカであり、今、技術立国、日本とかいう言葉の実質の一側面は、実は、ひとつのものごとに賭けるバカの育成を示すものではないかと思うものである。「BOYS BE BAKA!」である。

以上

平成18年5月